

# 調査結果の概要編

児 童 生 徒

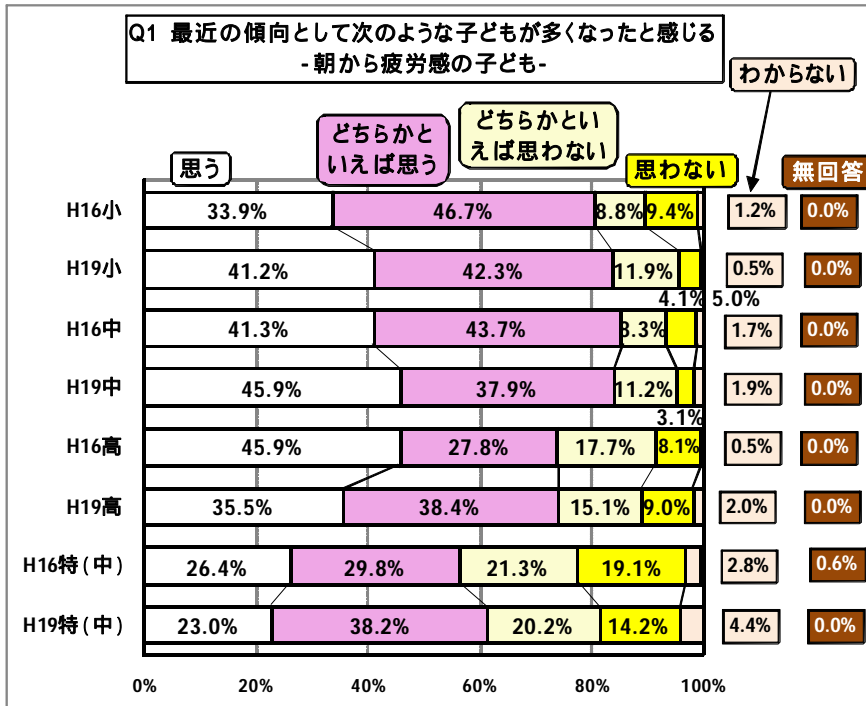
保 護 者

学 級 担 任

# 1 自分の実態に最も近いものを一つ選択(学級担任 1 ~ 29)

学級担任 1 最近の傾向として次のような子どもが多くなったと感じる  
 - 朝から疲労感の子ども -  
 ⇒ 特別支援学校で、肯定的な割合が増加

小・中・高・特  
Q1・Q1・Q1・Q1



【概要】

16年度調査と比較して、小・中・高等学校では肯定的な割合が同じ程度であるが、その一方、特別支援学校では増加している。また、小・中学校では、肯定的な割合が80%を超えている。

肯定的な割合

- 小 83.5% (2.9% 減)
- 中 83.8% (1.2% 減)
- 高 73.9% (0.2% 増)
- 特 61.2% (5.0% 増)

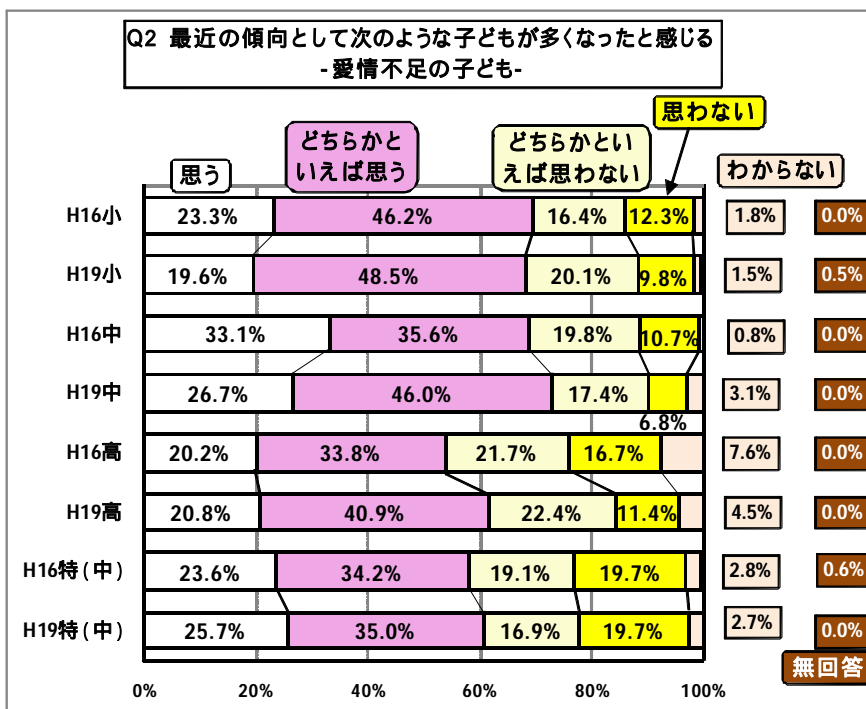
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P6 児童生徒3「朝起きた時学校へ行きたくない」

学級担任 2 最近の傾向として次のような子どもが多くなったと感じる  
 - 愛情不足の子ども -  
 ⇒ 高等学校で、肯定的な割合が増加

小・中・高・特  
Q2・Q2・Q2・Q2



【概要】

16年度調査と比較して、小・特別支援学校では肯定的な割合が同じ程度であるが、高等学校では増加している。また、中学校では、肯定的な割合が他の校種に比較して多く、70%を超えている。

肯定的な割合

- 小 68.1% (1.4% 減)
- 中 72.7% (4.0% 増)
- 高 71.7% (7.7% 増)
- 特 60.7% (2.9% 増)

( )は16年度調査との差

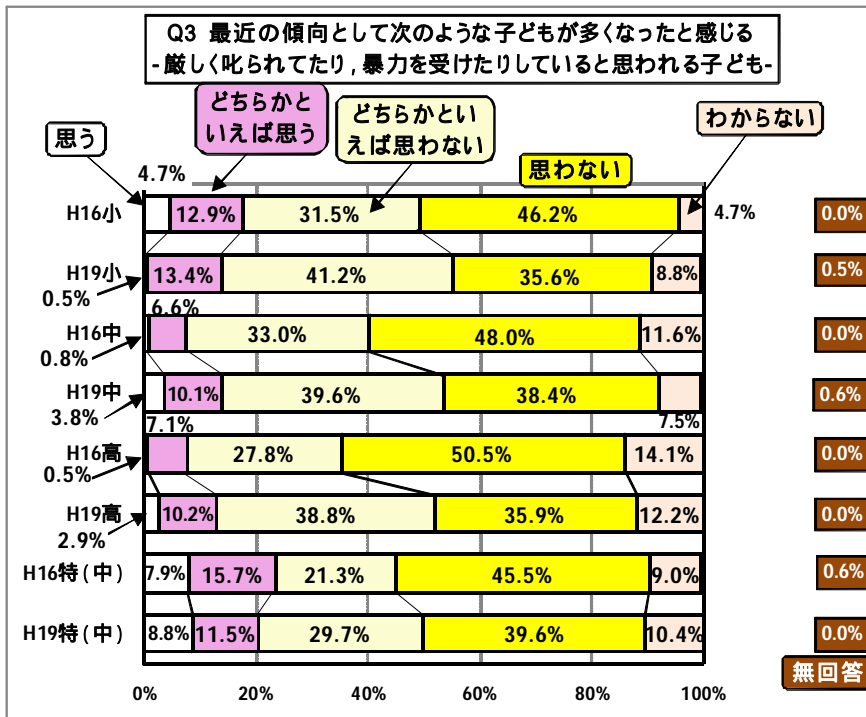
### 学級担任 3 最近の傾向として次のような子どもが多くなったと感じる

- 厳しく叱られている子ども -

⇒ 中・高等学校で、肯定的な割合が増加

小・中・高・特

Q3・Q3・Q3・Q3



#### 【概要】

16年度調査と比較して、小・特別支援学校では肯定的な割合が同じ程度であるが、中・高等学校では増加している。また、小・中・高等学校の肯定的な割合は、ほぼ同じである。特別支援学校では、他の校種に比較して肯定的な割合が多く、20%を超えている。

#### 肯定的な割合

小 13.9% (3.7% 減)

中 13.9% (6.5% 増)

高 13.1% (5.5% 増)

特 20.3% (3.3% 減)

( )は16年度調査との差

#### 【本調査における関連項目】

P13 児童生徒17「厳しい叱られ方の経験」

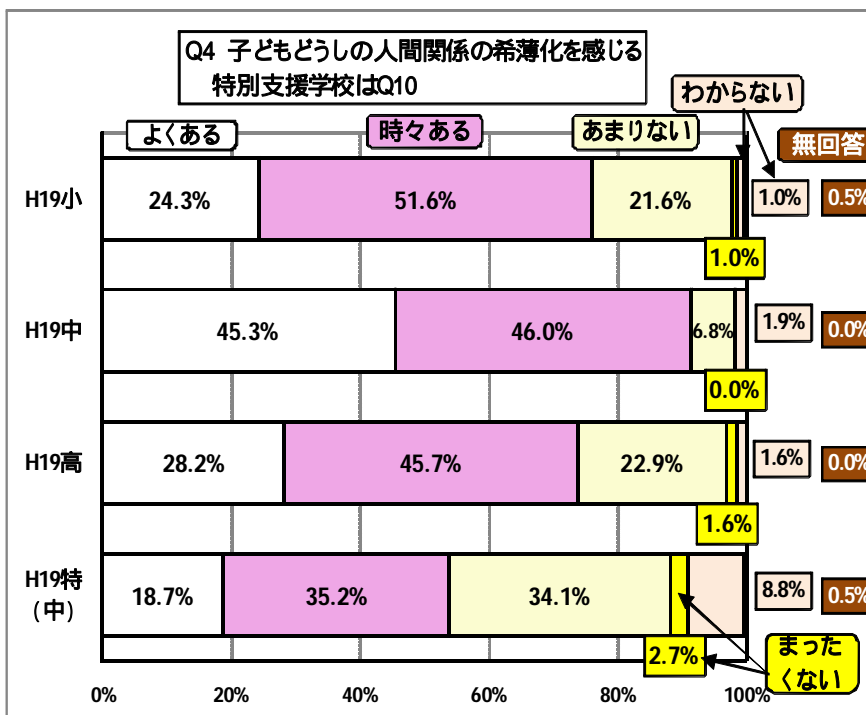
P28 保護者10「児童虐待観」

### 学級担任 4 子どもどうしの人間関係の希薄化を感じる

⇒ 肯定的な割合は、中学校が最も多く、90%を超える

小・中・高・特

Q4・Q4・Q4・Q10



#### 【概要】

校種によって大きな差が見られる。また、小・中・高等学校では、同様の調査における保護者の肯定的な割合と比較すると多くなっている。また、肯定的な割合が最も多いのは中学校であり、その中で「よくあると感じる」が、45%を超えている。

#### 【本調査における関連項目】

P15 児童生徒22「悩みごと相談できる友だち」

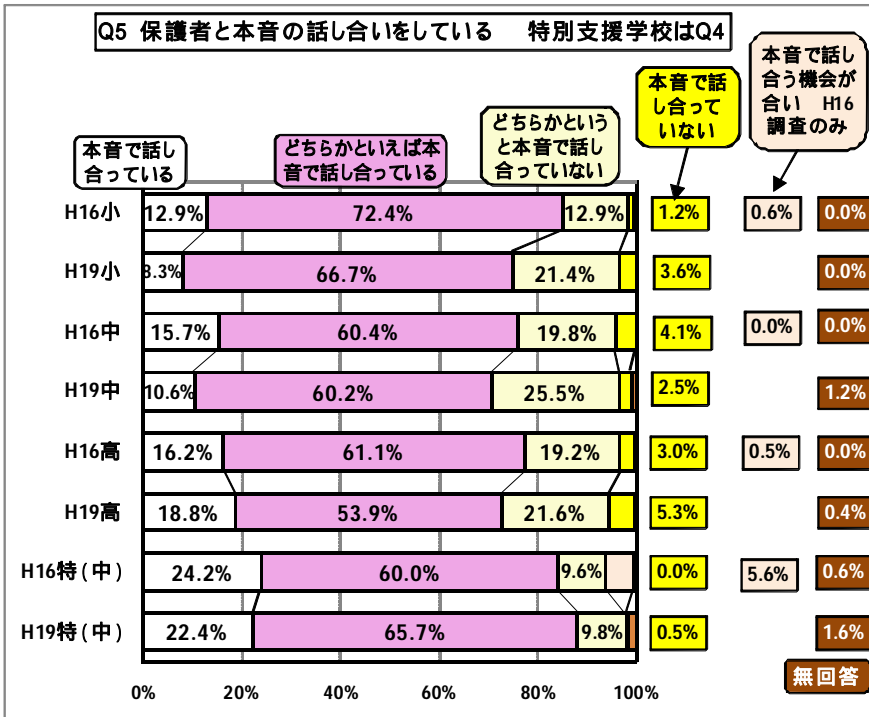
P16～18 児童生徒23～27「友だちとの関係」

P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」

学級担任 5 保護者と本音の話し合いをしている

⇒ 小・中学校で、肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q5・Q5・Q5・Q4



【概要】

16年度調査と比較すると、小・中学校では肯定的な割合が減少しているが、高等学校とともに、70%を超えている。特別支援学校では、他の校種に比較して肯定的な割合が多く、ほぼ90%となっている。

肯定的な割合

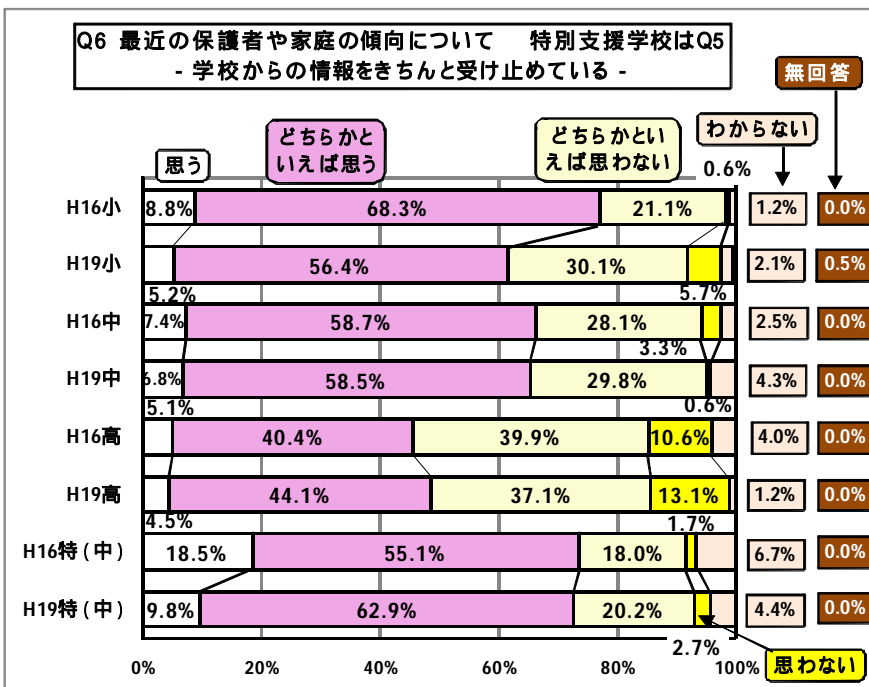
小 75.0% (10.3% 減)  
中 70.8% (5.3% 減)  
高 72.7% (4.6% 減)  
特 88.1% (3.9% 増)  
( )は16年度調査との差

学級担任 6 最近の保護者や家庭の傾向について

- 学校からの情報をきちんと受け止めている -

⇒ 小学校で、肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q6・Q6・Q6・Q5



【概要】

16年度調査と比較して、小学校では、肯定的な割合が大きく減少している。また、肯定的な割合を校種別に比較すると、特別支援学校では70%を超えているのに対して、最も少ない高等学校では50%程度となっている。

肯定的な割合

小 61.6% (15.5% 減)  
中 65.3% (0.8% 減)  
高 48.6% (3.1% 増)  
特 72.7% (0.9% 減)  
( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P37 保護者28「学校の満足度 -教育方針や学校の様子を伝える-」  
P45~46 学級担任7~9「保護者の傾向」

学級担任 7 最近の保護者や家庭の傾向について

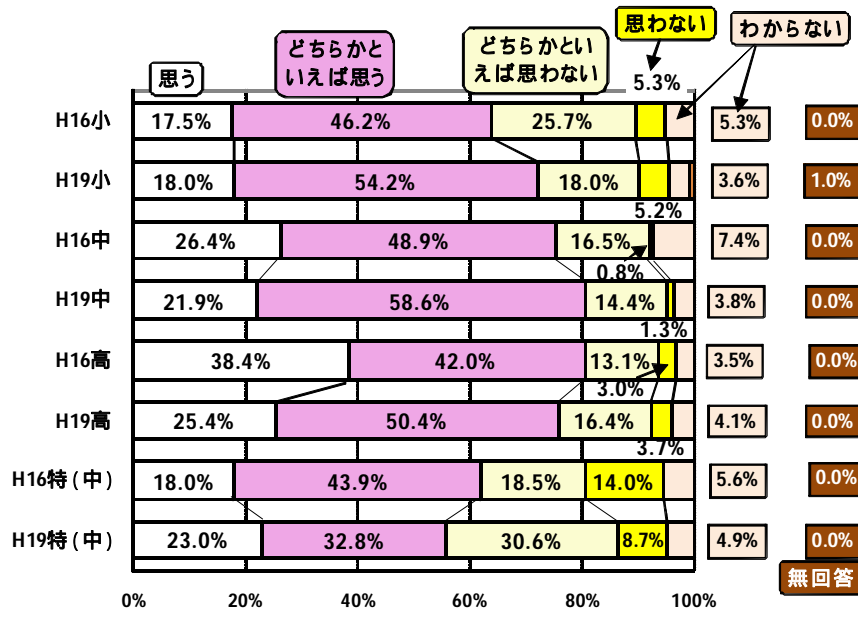
- 子どもと保護者の対話の時間が少ない -

小・中・高・特

⇒ 「対話の時間が少ない」と思う割合が、小・中学校で増加

Q7・Q7・Q7・Q6

Q7 最近の保護者や家庭の傾向について 特別支援学校はQ6  
- 子どもと保護者の対話の時間が少ない -



【概要】

16年度調査と比較して、「対話の時間が少ないと思う」割合が小・中学校で増加している。特に中学校でその割合が多く、80%を超えている。その一方、「対話の時間が少ないと思わない」割合は、特別支援学校で減少している。

肯定的な割合

- 小 72.2% (8.5% 増)
- 中 80.5% (5.2% 増)
- 高 75.8% (4.6% 減)
- 特 55.8% (6.1% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P44～46 学級担任 6・8・9

「保護者の傾向」

P10～11 児童生徒11～13「家族との話題」

学級担任 8 最近の保護者や家庭の傾向について

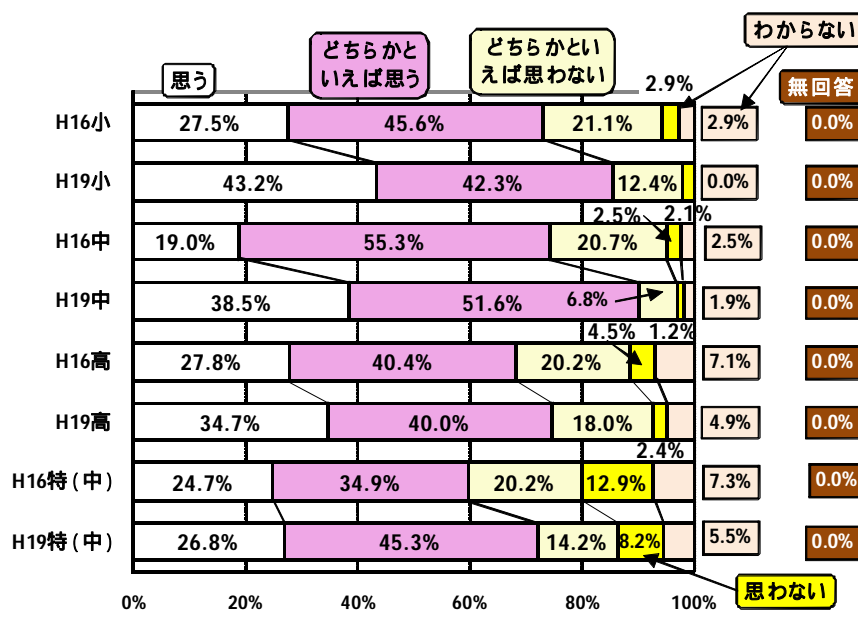
- 自分の子どもしか見ていない親が多い -

小・中・高・特

⇒ 各校種で、肯定的な割合が増加

Q8・Q8・Q8・Q7

Q8 最近の保護者や家庭の傾向について 特別支援学校はQ7  
- 自分の子どもしか見ていない親が多い -



【概要】

16年度調査と比較して、各校種ともに肯定的な割合が増加している。特に、小・中・特別支援学校では大きく増加している。また、中学校では肯定的な割合が、ほぼ90%になっている。

肯定的な割合

- 小 85.5% (12.4% 増)
- 中 90.1% (15.8% 増)
- 高 74.7% (6.5% 増)
- 特 72.1% (12.5% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P44～46 学級担任 6・7・9

「保護者の傾向」

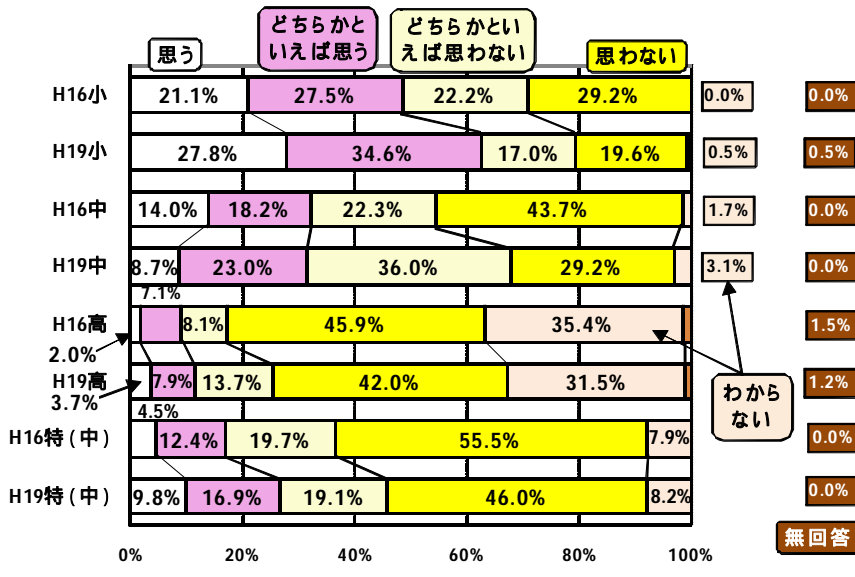
学級担任9 最近の保護者や家庭の傾向について

- 授業参観での私語が多い -

⇒ 小・特別支援学校で、肯定的な割合が増加

小・中・高・特  
Q9・Q9・Q9・Q8

Q9 最近の保護者や家庭の傾向について 特別支援学校はQ8  
- 授業参観での私語が多い -



【概要】

16年度調査と比較して、小・特別支援学校で肯定的な割合が増加している。また、小学校では肯定的な割合が60%を超え、他の校種に比較して非常に多い結果となっている。

肯定的な割合

- 小 62.4% (13.8% 増)
- 中 31.7% (0.5% 減)
- 高 11.6% (2.5% 増)
- 特 26.7% (9.8% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

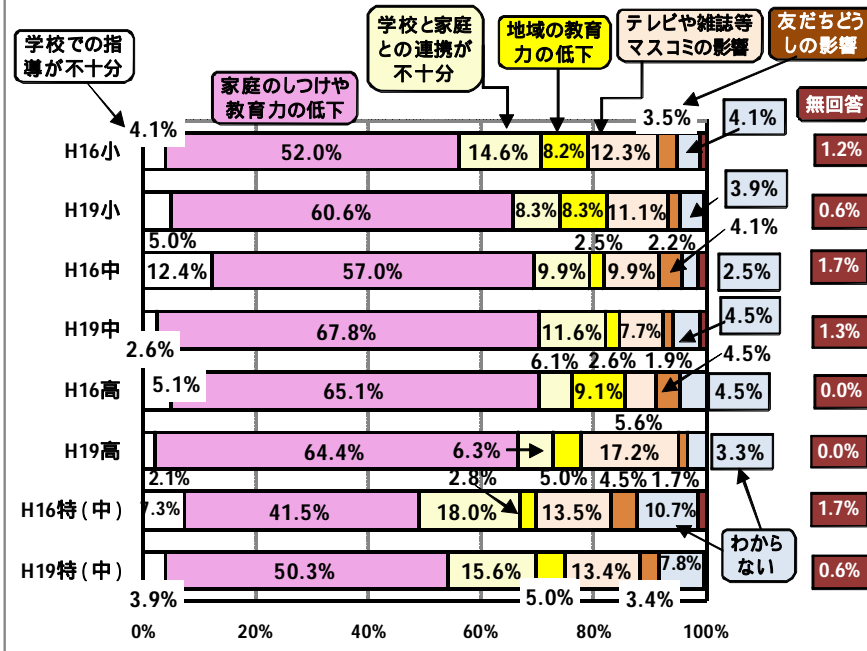
P44～45 学級担任6～8「保護者の傾向」

学級担任10 子どものよくない判断や行動の主な原因

⇒ 小・中・特別支援学校で、「家庭のしつけや教育力の低下」を挙げる割合が増加

小・中・高・特  
Q10・Q10・Q10・Q9

Q10 子どものよくない判断や行動の主な原因 特別支援学校はQ9



【概要】

16年度調査と比較して、「家庭のしつけや教育力の低下」を原因に挙げる割合が、小・中・特別支援学校で増加している。

「家庭のしつけや教育力の低下」の割合

- 小 60.6% (8.6% 増)
- 中 67.8% (10.8% 増)
- 高 64.4% (0.7% 減)
- 特 50.3% (8.8% 増)

( )は16年度調査との差

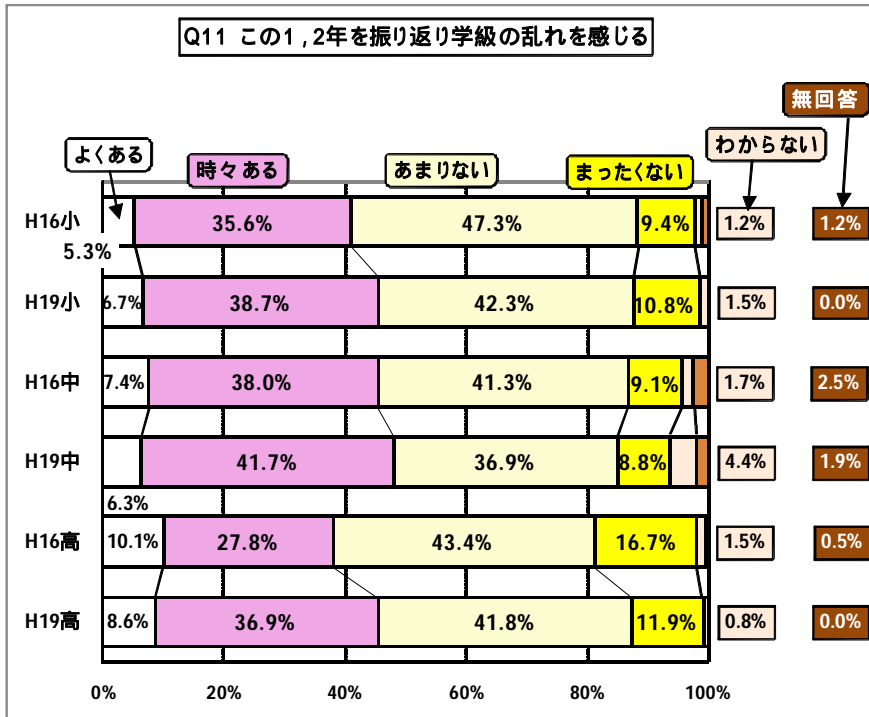
【本調査における関連項目】

P29～31 保護者12～15「子どものよくない判断、行動の原因」

学級担任11 この1,2年を振り返り, 学級の乱れを感じる

→ 高等学校で, 肯定的な割合が増加

小・中・高  
Q11・Q11・Q11



【概要】

16年度調査と比較して, 各校種で肯定的な割合が45%を超えている。高等学校では, 肯定的な割合が増加している

肯定的な割合

小 45.4% (4.5% 増)

中 48.0% (2.6% 増)

高 45.5% (7.6% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

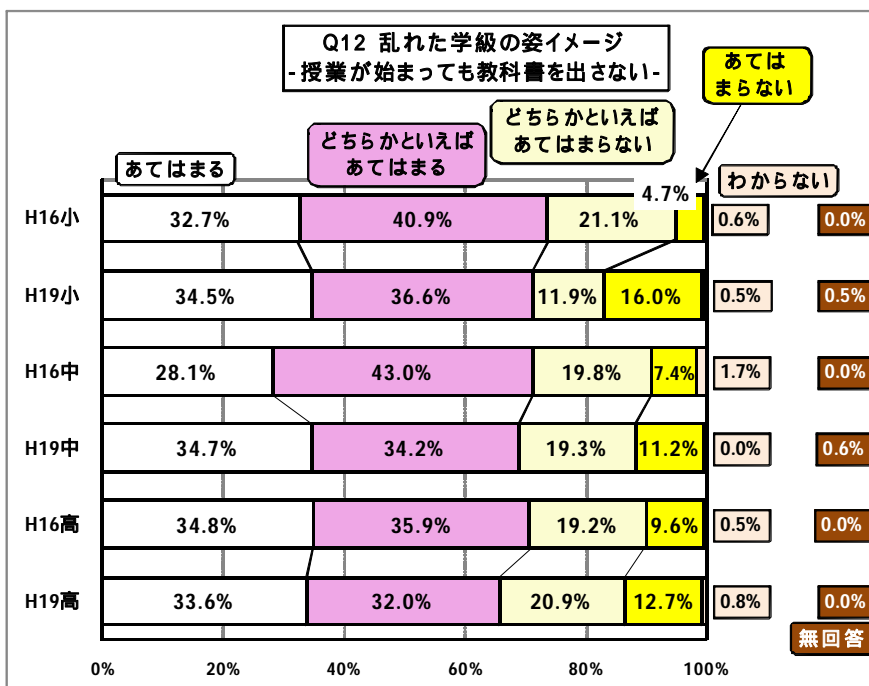
P47~49 学級担任12~16「乱れた学級のイメージ」

学級担任12 乱れた学級のイメージ

- 授業が始まって教科書を出さない -

→ 高等学校で, 肯定的な割合が減少

小・中・高  
Q12・Q12・Q12



【概要】

各校種ともに, 肯定的な割合65%を超えている。また, 高等学校では, 16年度調査と比較して, 肯定的な割合が減少している。学年が上がるにつれて, 肯定的な割合が減少する傾向にある。

肯定的な割合

小 71.1% (2.5% 減)

中 68.9% (2.2% 減)

高 65.6% (5.1% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P47 学級担任11「学級の乱れを感じる」

P48~49 学級担任13~16「乱れた学級のイメージ」

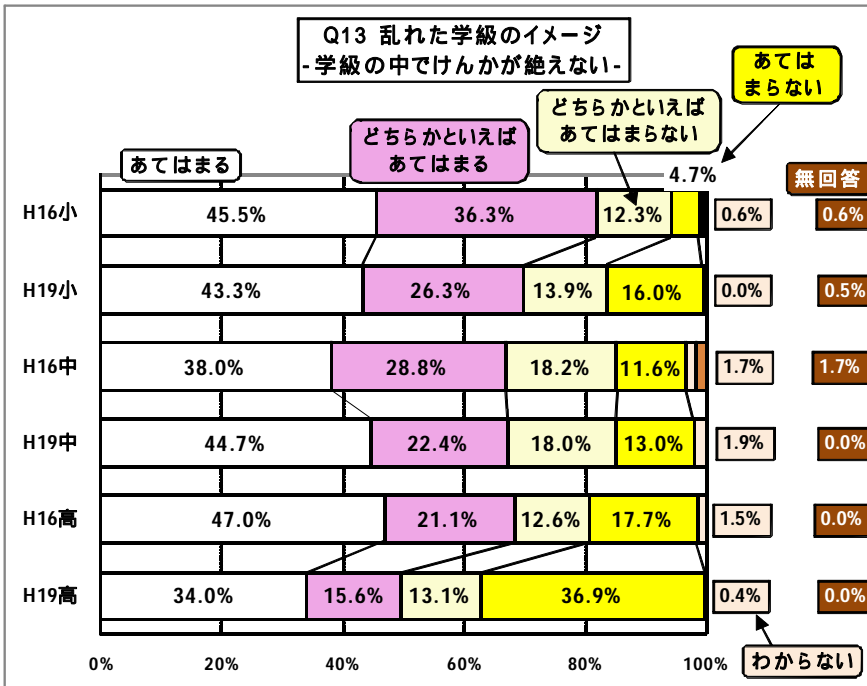
学級担任13 乱れた学級のイメージ

- 学級の中でけんかが絶えない -

小・中・高

⇒ 小・高等学校で、肯定的な割合が大きく減少

Q13・Q13・Q13



【概要】

16年度調査と比較して、肯定的な割合が、小・高等学校で大きく減少している。その一方、中学校の肯定的な割合は、16年度調査と同様の結果となっている。また、中学校では「あてはまる」と回答した割合が増加している

肯定的な割合

小 69.6% (12.2% 減)

中 67.1% (0.3% 増)

高 49.6% (18.5% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P47 学級担任11「学級の乱れを感じる」

P47～49 学級担任12・14～16「乱れた学級のイメージ」

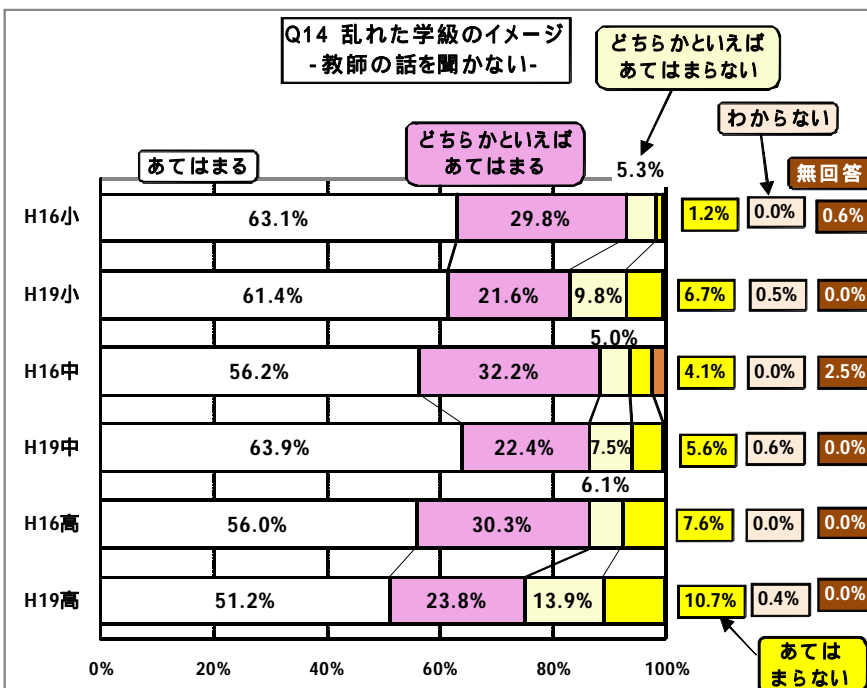
学級担任14 乱れた学級のイメージ

- 教師の話を聞かない -

小・中・高

⇒ 小・高等学校で、肯定的な割合が大きく減少

Q14・Q14・Q14



【概要】

16年度調査と比較して、肯定的な割合が、小・高等学校で大きく減少している。また、小・中学校では肯定的な割合が80%を超えている。

肯定的な割合

小 83.0% (9.9% 減)

中 86.3% (2.1% 減)

高 75.0% (11.3% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

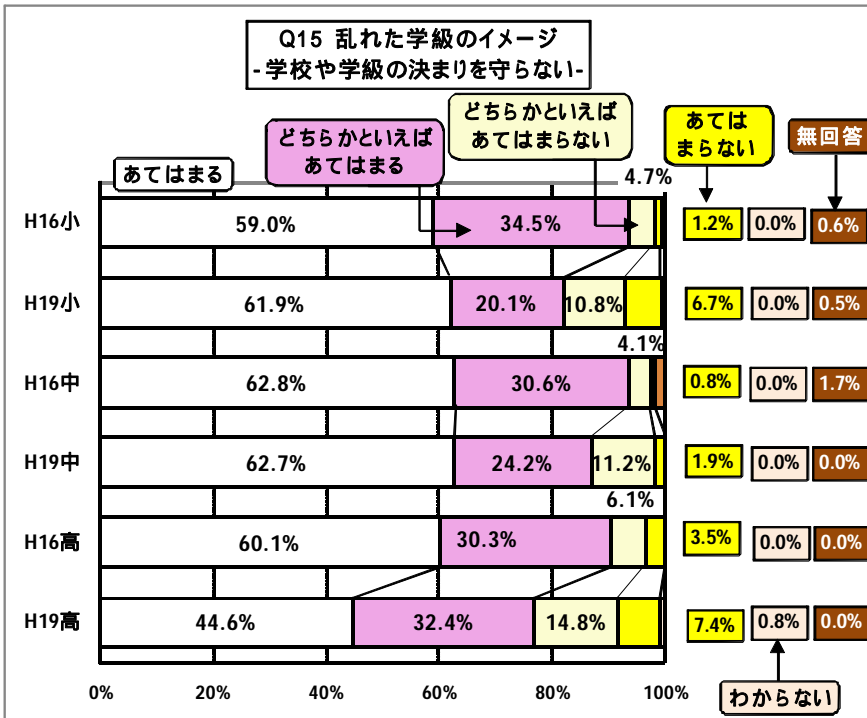
P47 学級担任11「学級の乱れを感じる」

P47～49 学級担任12・13・15・16「乱れた学級のイメージ」



学級担任15 乱れた学級のイメージ  
 - 学校や学級の決まりを守らない -  
 ⇒ 各校種で、肯定的な割合が減少

小・中・高  
 Q15・Q15・Q15



【概要】

16年度調査と比較して、肯定的な割合が、各校種で減少している。特に、小・高等学校でその傾向が見られる。また、中学校では、肯定的な割合が85%を超えている。

肯定的な割合

小 82.0% (11.5% 減)

中 86.9% (6.5% 減)

高 77.0% (13.4% 減)

( )は16年度調査との差

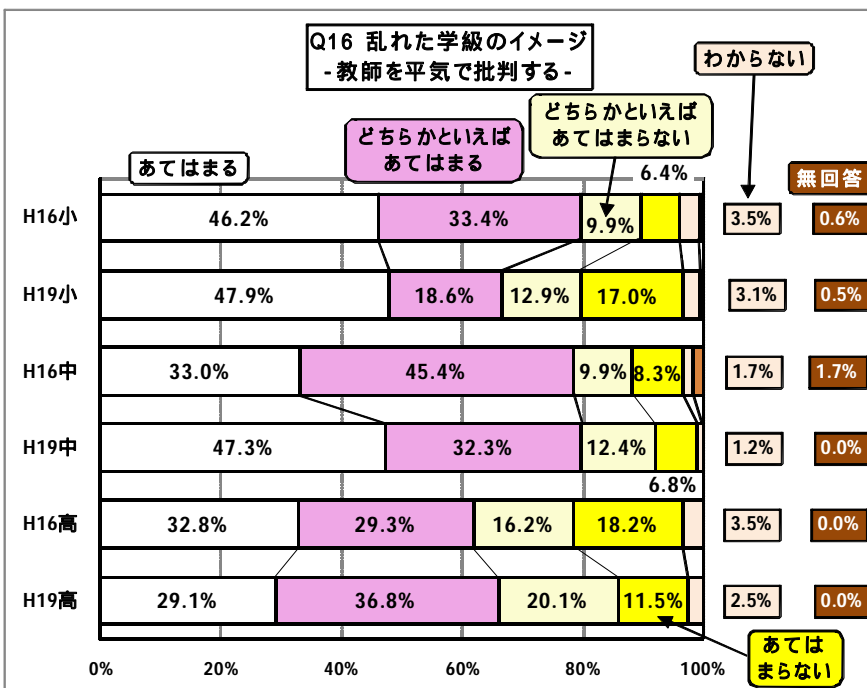
【本調査における関連項目】

P47 学級担任11「学級の乱れを感じる」

P47～49 学級担任12～14・16「乱れた学級のイメージ」

学級担任16 乱れた学級のイメージ  
 - 教師を平気で批判する -  
 ⇒ 小学校で、肯定的な割合が大きく減少

小・中・高  
 Q16・Q16・Q16



【概要】

16年度調査と比較して、肯定的な割合が、小学校で大きく減少している。中学校では、肯定的な割合が、ほぼ80%と最も多く、小・高等学校との違いが見られる。

肯定的な割合

小 66.5% (13.1% 減)

中 79.6% (1.2% 増)

高 65.9% (3.8% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P47 学級担任11「学級の乱れを感じる」

P47～49 学級担任12～16「乱れた学級のイメージ」

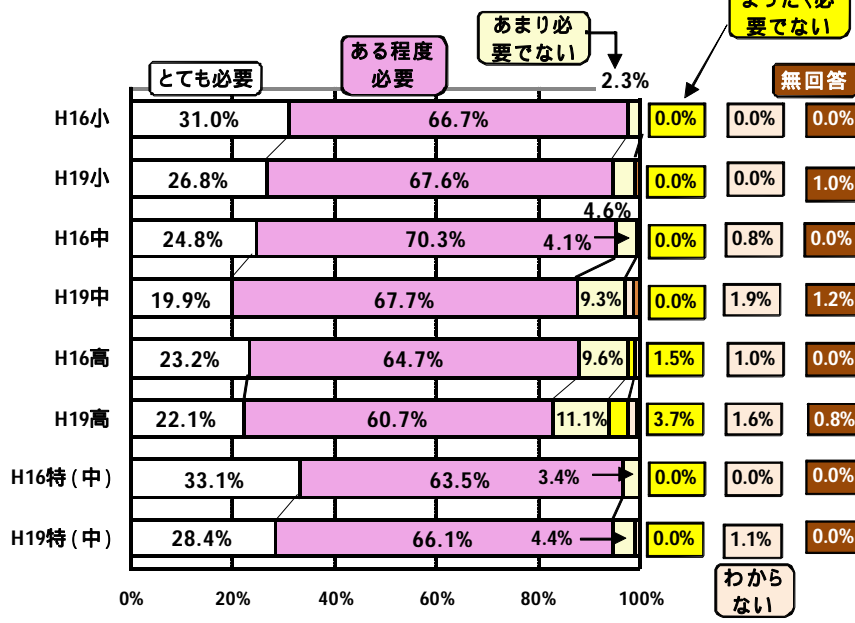
学級担任17 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

- 地域の人材活用 -

⇒ 16年度調査と同様に，学年が上がるにつれて，肯定的な割合が減少

小・中・高・特  
Q17・Q17・Q17・Q11

Q17 開かれた学校に向けた取り組みの必要性 特別支援学校はQ11  
- 地域の人材活用 -



【概要】

16年度調査と同様に，学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少している。また，16年度調査と比較して，肯定的な割合が，中・高等学校で減少している。小・特別支援学校では，肯定的な割合が，ほぼ95%となっている。

肯定的な割合

小 94.4% (3.3% 減)

中 87.6% (7.5% 減)

高 82.8% (5.1% 減)

特 94.5% (2.1% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P50～52 学級担任18～22「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

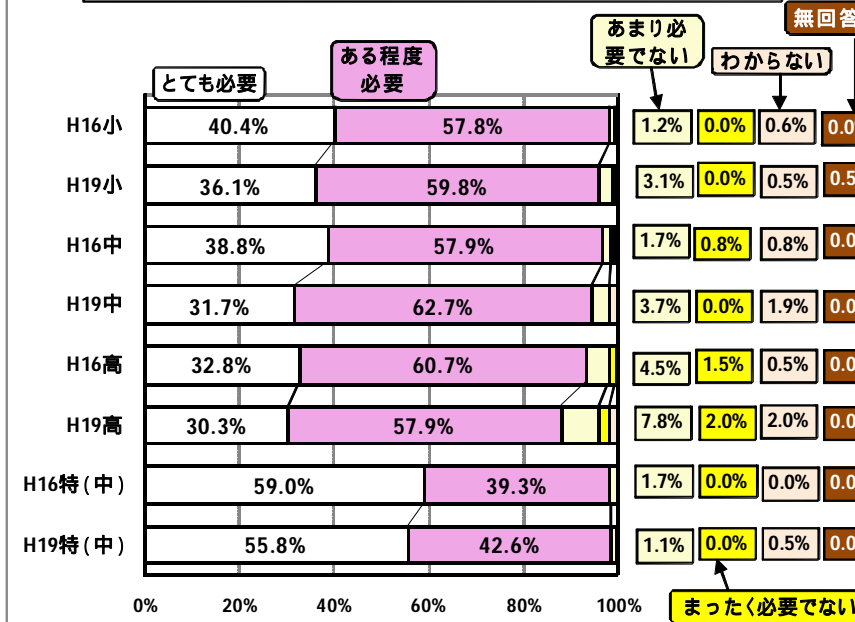
学級担任18 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

- 地域の施設や関係機関との連携 -

⇒ 小・中・特別支援学校では，肯定的な割合が，大部分を占める

小・中・高・特  
Q18・Q18・Q18・Q12

Q18 開かれた学校に向けた取り組みの必要性 特別支援学校はQ12  
- 地域の施設や関係機関との連携 -



【概要】

小・中・特別支援学校では，肯定的な割合が，ほぼ95%を超えている。その一方，高等学校では，16年度調査と比較して肯定的な割合が減少しているととともに，他の校種よりも少なくなっている。

肯定的な割合

小 95.9% (2.3% 減)

中 94.4% (2.3% 減)

高 88.2% (5.3% 減)

特 98.4% (0.1% 増)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P50～52 学級担任17・19～22「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

学級担任19 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

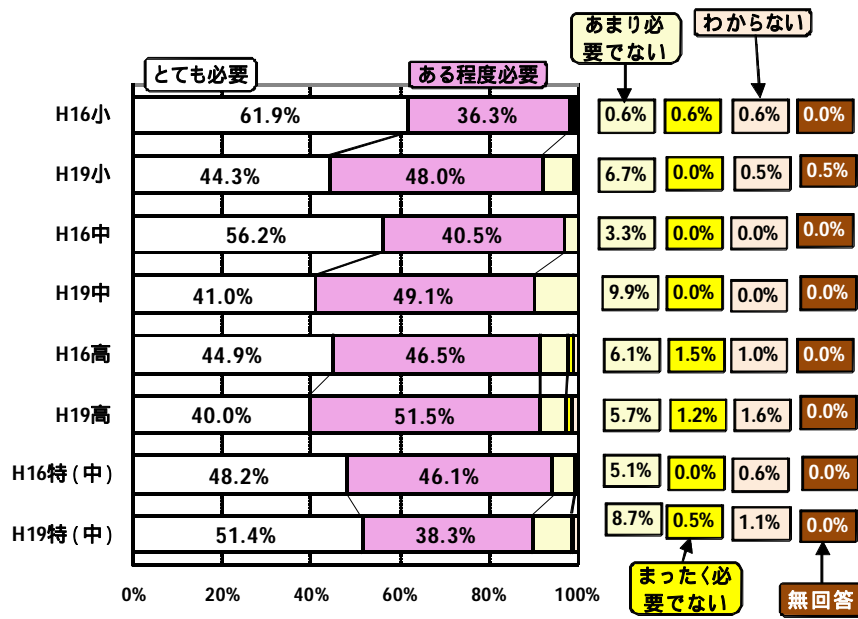
- 学校運営への保護者への積極的な協力, 参加 -

小・中・高・特

⇒ 各校種ともに, 肯定的な割合が約90%

Q19・Q19・Q19・Q13

Q19 開かれた学校に向けた取り組みの必要性 特別支援学校はQ13  
- 学校運営への保護者の積極的な協力, 参加 -



【概要】

各校種ともに, 肯定的な割合が約90%となっている。その一方, 16年度調査と比較して, 小・中学校では肯定的な割合が減少している。

肯定的な割合

小 92.3% (5.9% 減)

中 90.1% (6.6% 減)

高 91.5% (0.1% 増)

特 89.7% (4.6% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P50~52 学級担任17・18・20~22「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

学級担任20 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

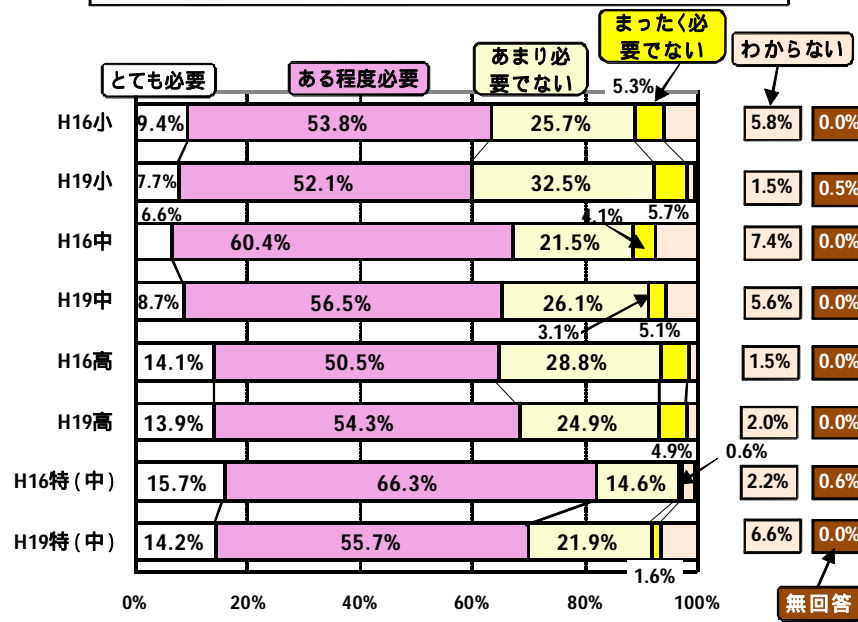
- 教師の地域活動への参加 -

小・中・高・特

⇒ 高・特別支援学校で, 肯定的な割合が約70%

Q20・Q20・Q20・Q14

Q20 開かれた学校に向けた取り組みの必要性 特別支援学校はQ14  
- 教師の地域活動への参加 -



【概要】

16年度調査と比較して, 特別支援学校では, 肯定的な割合が減少しているが, 高等学校とともに, ほぼ70%となっている。その一方, 小学校の肯定的な割合は, 60%程度であり差が見られる。

肯定的な割合

小 59.8% (3.4% 減)

中 65.2% (1.8% 減)

高 68.2% (3.6% 増)

特 69.9% (12.1% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P50~52 学級担任17~19・21~22「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

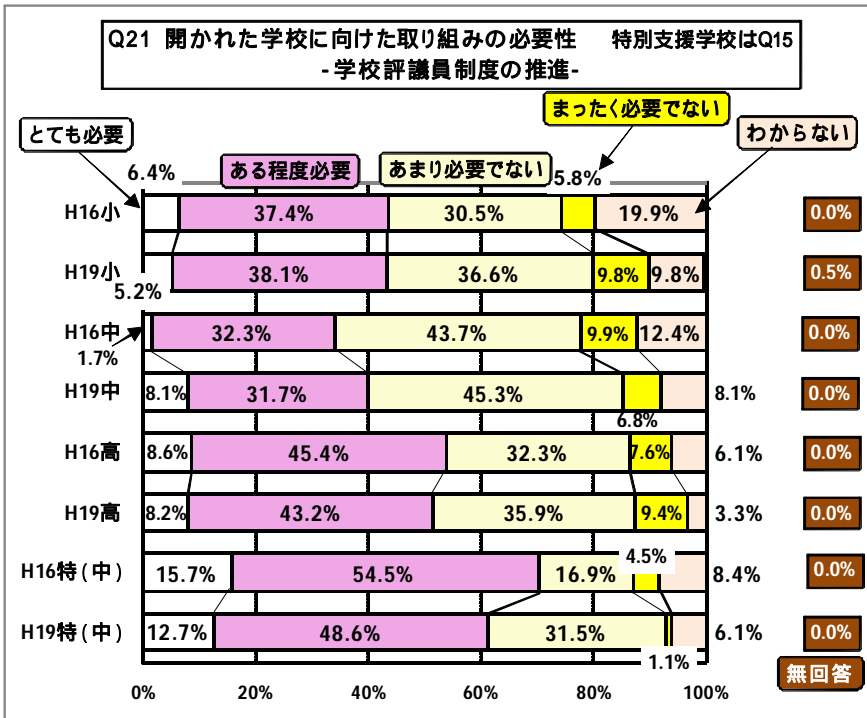
学級担任21 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

- 学校評議員制度の推進 -

小・中・高・特

⇒ 特別支援学校が、他の校種よりも肯定的な割合が多い

Q21・Q21・Q21・Q15



【概要】

特別支援学校では、肯定的な割合が、ほぼ60%であるが、中学校では40%程度であり、校種によって差が見られる。「外部評価とその公表」と同様に、「開かれた学校に向けた取り組み」の関連項目の結果と比較して肯定的な割合が少ない傾向にある。

肯定的な割合

小 43.3% (0.5% 減)

中 39.8% (5.8% 増)

高 51.4% (2.6% 減)

特 61.3% (8.9% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P50～52 学級担任17～19・22

「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

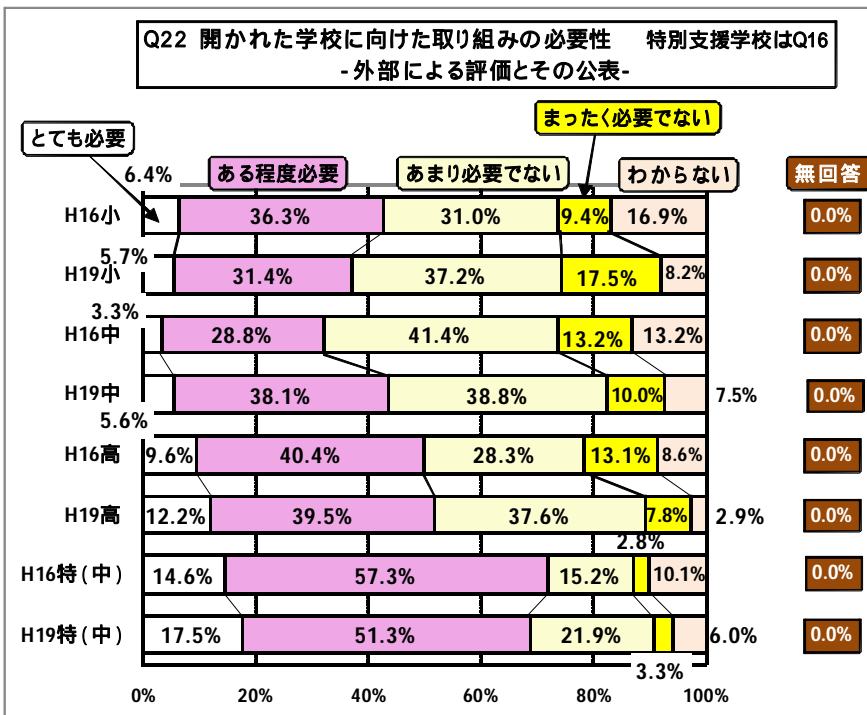
学級担任22 開かれた学校に向けた取り組みの必要性

- 外部による評価とその公表 -

小・中・高・特

⇒ 特別支援学校が、他の校種よりも肯定的な割合が多い

Q22・Q22・Q22・Q16



【概要】

特別支援学校では、肯定的な割合は、ほぼ70%であるが、40%程度の小・中学校、および50%程度の高等学校との違いが見られる。「学校評議員制度の推進」と同様に、「開かれた学校に向けた取り組み」の関連項目の結果と比較して肯定的な割合が少ない傾向にある。

肯定的な割合

小 37.1% (5.6% 減)

中 43.7% (11.6% 増)

高 51.7% (1.7% 増)

特 68.8% (3.1% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

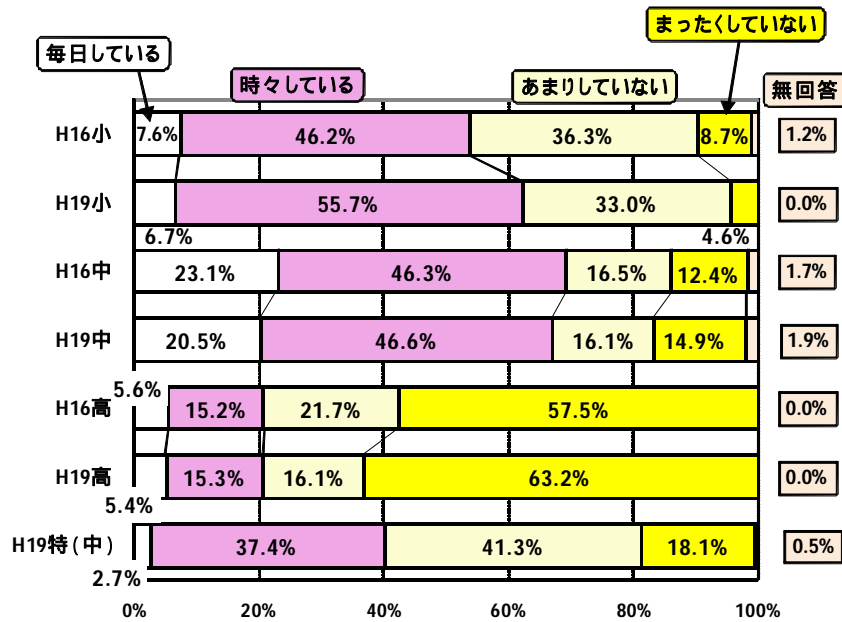
P50～52 学級担任17～22

「開かれた学校に向けた取り組みの必要性」

### 学級担任23 学級で子どもと一緒に読書をする

小・中・高・特  
 ⇒ 小学校で増加し，中学校とともに肯定的な割合が60%以上 Q23・Q23・Q23・Q17

Q23 学級で子どもと一緒に読書をする 特別支援学校はQ17



#### 【概要】

16年度調査と比較して，肯定的な割合は，小学校で増加し，中学校とともに60%以上となっている。高等学校では，学級担任が生徒と一緒に読書する機会はありません結果となっている

#### 肯定的な割合

- 小 62.4% (8.6% 増)
- 中 67.1% (2.3% 減)
- 高 20.7% (0.1% 減)
- 特 40.1%

( )は16年度調査との差  
 特別支援学校では，16年度に調査していない

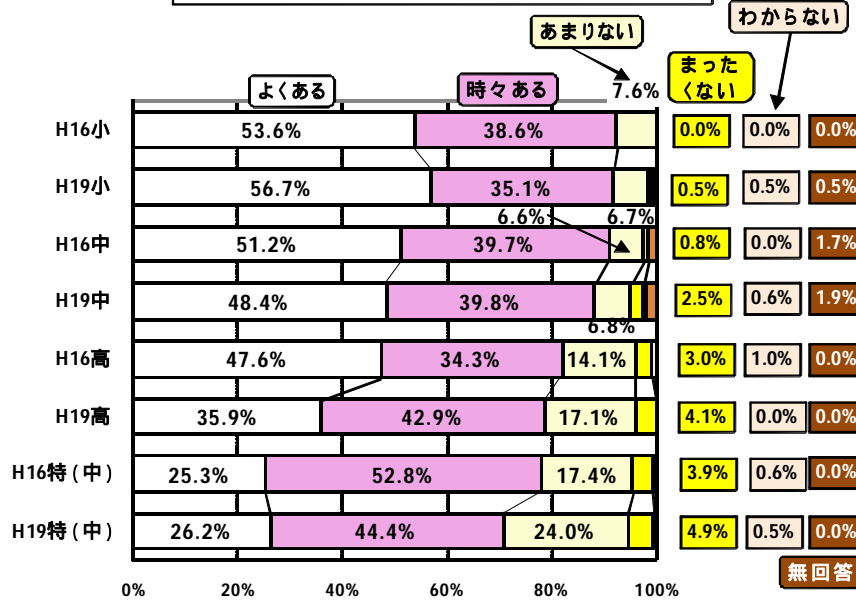
#### 【本調査における関連項目】

P7 児童生徒5「読書好き」

### 学級担任24 仕事の悩み

- 忙しすぎてゆとりをもって子どもと接する時間がない - 小・中・高・特  
 ⇒ 小・中学校で，肯定的な割合が約90% Q24・Q24・Q24・Q18

Q24 仕事の悩み 特別支援学校はQ18  
 - 忙しすぎてゆとりをもって子どもと接する時間がない -



#### 【概要】

16年度調査と同様に，小・中学校では肯定的な割合が，ほぼ90%となっている。その一方，特別支援学校では，肯定的な割合が減少し，70%程度と小・中学校との違いが見られる。

#### 肯定的な割合

- 小 91.8% (0.4% 減)
- 中 88.2% (2.7% 減)
- 高 78.8% (3.1% 減)
- 特 70.6% (7.5% 減)

( )は16年度調査との差

#### 【本調査における関連項目】

P54～55 学級担任25～28「仕事の悩み」

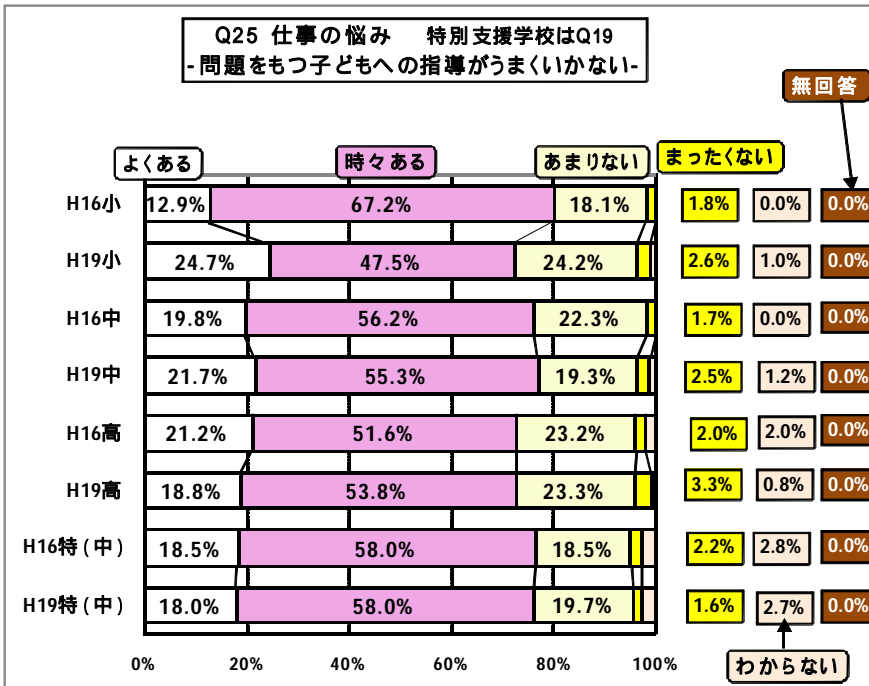
学級担任25 仕事の悩み

- 問題をもつ子どもへの指導がうまくいかない -

小・中・高・特

⇒ 肯定的な割合が、各校種ともに75%前後

Q25・Q25・Q25・Q19



【概要】

16年度調査と比較して、小学校では肯定的な割合が減少している。その結果、肯定的な割合が、各校種ともに、ほぼ75%となっている。

肯定的な割合

小 72.2% (7.9% 減)

中 77.0% (1.0% 増)

高 72.6% (0.2% 減)

特 76.0% (0.5% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P53～55 学級担任24・26～28

「仕事の悩み」

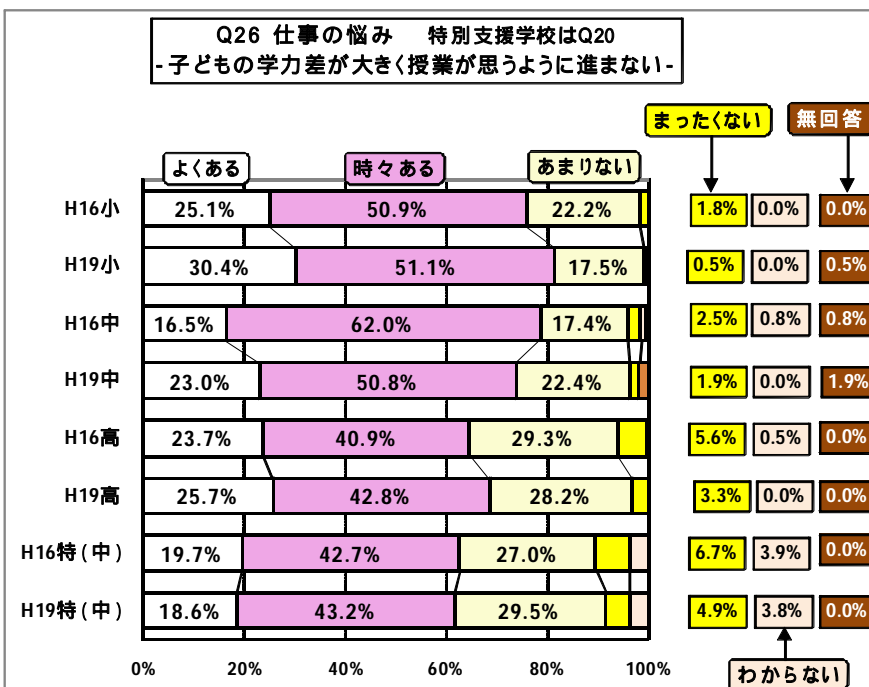
学級担任26 仕事の悩み

- 子どもの学力差が大きく授業が思うように進まない -

小・中・高・特

⇒ 学年が上がるにつれて、肯定的な割合が減少

Q26・Q26・Q26・Q20



【概要】

学年が上がるにつれて、肯定的な割合が減少している。また、16年度調査と比較して、小学校では肯定的な割合が増加し、80%を超えている。

肯定的な割合

小 81.5% (5.5% 増)

中 73.8% (4.7% 減)

高 68.5% (3.9% 増)

特 61.8% (0.6% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P53～55 学級担任24・25・27・

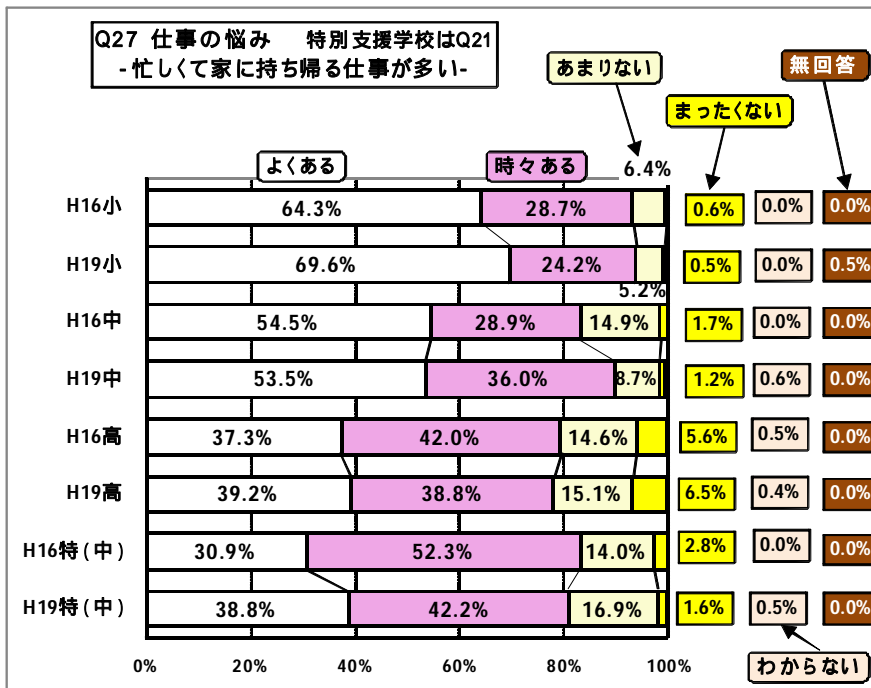
28「仕事の悩み」

学級担任27 仕事の悩み

- 忙しくて家に持ち帰る仕事が多い -

⇒ 小・中学校で、肯定的な割合が90%前後

小・中・高・特  
Q27・Q27・Q27・Q21



【概要】

16年度調査と比較して、中学校で肯定的な割合が増加し、小学校とともに、ほぼ90%になっている。また、他の「仕事の悩み」の質問項目と比較すると、各校種ともに肯定的な割合が最も多くなっている。

肯定的な割合

小 93.8% (0.8% 増)  
中 89.5% (6.1% 増)  
高 78.0% (1.3% 減)  
特 81.0% (2.2% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

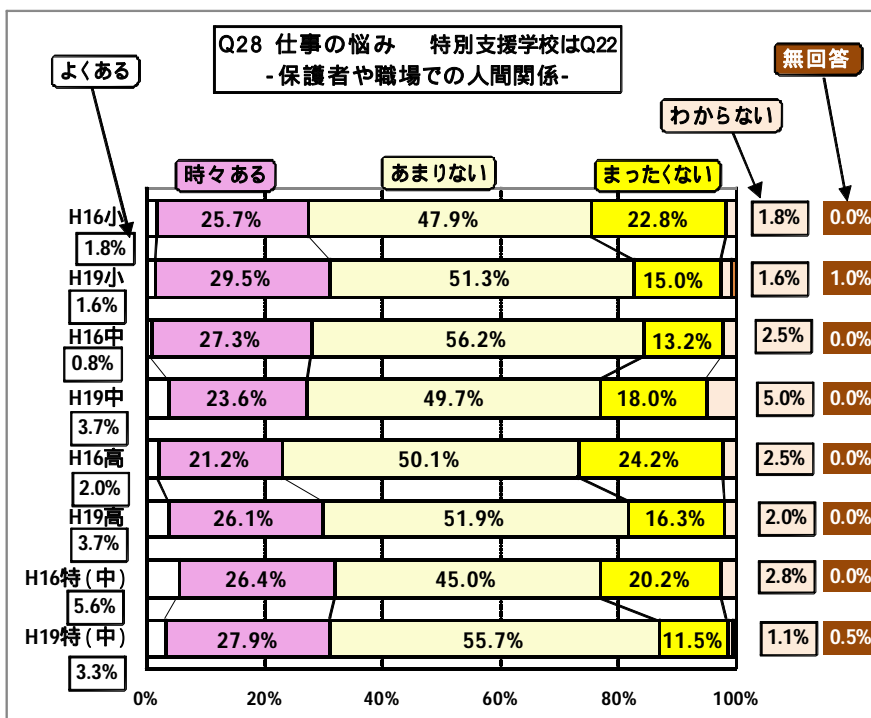
P53～55 学級担任24～26・28  
仕事の悩み」

学級担任28 仕事の悩み

- 保護者や職場での人間関係 -

⇒ 各校種ともに、肯定的な割合が30%前後

小・中・高・特  
Q28・Q28・Q28・Q22



【概要】

16年度調査と同様に、各校種ともに肯定的な割合が、ほぼ30%となっている。また、高等学校では、16年度調査と比較して肯定的な割合が増加している。

肯定的な割合

小 31.1% (3.6% 増)  
中 27.3% (0.8% 減)  
高 29.8% (6.6% 増)  
特 31.2% (0.8% 減)

( )は16年度調査との差

【本調査における関連項目】

P53～55 学級担任24～27「仕事の悩み」

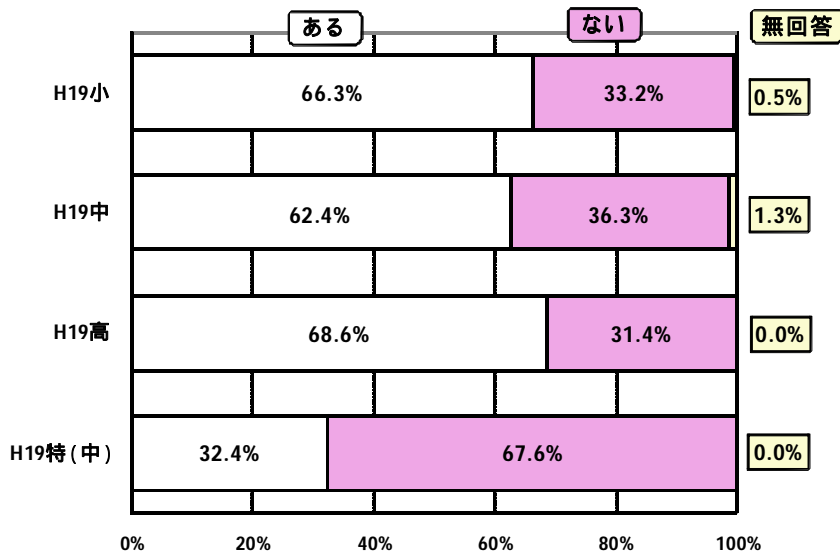
学級担任29 情報モラルの指導の有無

小・中・高・特

⇒ 小・中・高等学校で「ある」が60%を超える

Q29・Q29・Q29・Q23

Q29 情報モラルの指導の有無 特別支援学校はQ23



【概要】

「情報モラルの指導したことがある」と回答した割合は、小・中・高等学校ともに60%を超えている。その一方、特別支援学校では、ほぼ30%になっている。

【本調査における関連項目】

- P7 児童生徒6「パソコンの使用日数」
- P8 児童生徒7「出会い系サイトへの接続経験」
- P23 児童生徒37「パソコンの用途」
- P26 保護者6「パソコンや携帯電話についての話し合い」